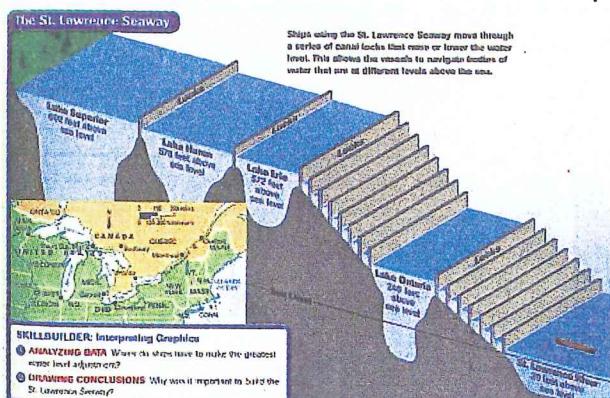


公共事業と教育-学びの場から考える-

No. 11

セントローレンス海路
(McDougal Littell社の地理教科書より)



この背景には、米国の教育の危機的状況を訴えた1983年の連邦教育改革報告書「危機に立つ国家（A Nation at Risk）」があり、一方で、解決すべき社会問題の一つとして、1930年代のニューディール政策により整備された多くのインフラが一斉に老朽化を迎える中、予算措置が追いつかなかつたため、全米各地で橋梁や舗装が劣悪な状態に陥つていった「荒廃するアメリカ（America in Ruins）」という状況がありました。

地理教育ガイドラインの最大特徴は、地理学という複雑で興味を持ちにくい学問領域を（①位置②場所③人と環境との関わり④移動⑤地域）といふ、分かりやすく多くの人々に受け入れやすい5つのテーマ（地理学の5大テーマ）に再構成したことでした。「地理学の5大テーマ」に再構成した。

地理学の5大テーマは、米国地理教育会議によって1984年に刊行された、初等・中等学校用の地理教育指導書「地理教育ガイドライン」に基づいて実施されています。

地理教育ガイドラインは、米国及び世界に対する国民レベルの知識不足の解消と、将来世代に対する地理規模の地理的教養の付与を目的として、こうした幅広い地理的教養を身につけた市民の積極的参加によってこそ、現在の民主主義社会で発生している様々な問題が解決できるという課題認識に基づき作成されたものです。

この背景には、米国の教育の危機的状況を訴えた1983年の連邦教育改革報告書「危機に立つ国家（A Nation at Risk）」があり、一方で、解決すべき社会問題の一つとして、1930年代のニューディール政策により整備された多くのインフラが一斉に老朽化を迎える中、予算措置が追いつかなかつたため、全米各地で橋梁や舗装が劣悪な状態に陥つていった「荒廃するアメリカ（America in Ruins）」という状況がありました。

地理学の5大テーマは、現在、地理教科書の冒頭に必ず位置づけられ、繰り返し教えられるべき学習項目として不動的地位を築いています。

公共事業と 教育

学びの場から考える

国土学アナリスト 森田 康夫

●●11

北米発展の礎となった交通インフラ整備 米国の地理教育から学ぶ

トランク・カナダ・レイルロードは1885年に完成しました。これらの幹線鉄道ネットワークは、大量の物資や旅客を運ぶことにより、両国の経済発展や國家統一に寄与し、今日では、米国の鉄道ネットワークは世界第1位、カナダのそれは世界第3位となっています。

トランク・カナダ・レイルロードは、米国内に約400万km、カナダ国内に約56万kmの道路ネットワークが構築されています。パックス・アメリカ（アメリカの平和）は、アメリカ人による国土への働きかけの成果であり、内陸運河、大陸横断鉄道、高速道路ネットワークといった交通インフラ整備の果実であると言えます。

拍車がかかり、今日では、パックス・アメリカ（アメリカの平和）は、アメリカ人による国土への働きかけの成果であり、内陸運河、大陸横断鉄道、高速道路ネットワークといった交通インフラ整備の果実であると言えます。

（毎週火曜日掲載）

記述は次の通りです。
・ヨーロッパから入植した移民たちは大西洋沿岸部にコロニー（植民地）を建設し、そこを起点として、ナショナル・ロードなどの街道やミシシッピ川などの内陸水路を使って、また運河ネットワークを構築しながら内陸部（西部）に移動していくました。

・米国とカナダの合同プロジェクトとして1950年代に完成した「セントローレンス海路」は、大西洋から五大湖のスペリオル湖まで船が航行できる海路で、多くの開拓の水位調整（約600mの上下移動）を行つて、巨大な外洋航海船を行わせることを可能にしました。北米の工業・農業中心地まで航行させることが可能になりました。

「マ」は現在、地理教科書の冒頭に必ず位置づけられ、繰り返し教えられるべき学習項目として不動的地位を築いています。

米国の教育出版社（McDougal Littell社）が

発行している高校地理教科書『World Geography』2009年の北米地図の单元では、「テーマ①」アメリカ大陸への先住民の入植と農業による国土の改変、「テーマ②」都市の建設（地下空間利用が進む寒冷地・モントリオールスタイル化が進むロサンゼルス）、
「テーマ③」距離の克服（内陸運河、大陸横断鉄道、高速道路ネットワークの整備）の3事例が取り上げられ、「人と環境との関わり」に関する詳細な説明がなされています。